

ときめき きらめき いきいきを伝える

広報



SEKI

せき

2018

5

No.1687

特集

Welcome to SEKI O·MO·TE·NA·SHI

TOPICS

- ・ビジネスプラス展…P6.7
- ・関鍛冶伝承館特別企画展関連イベント…P8.9
- ・小瀬鶉飼…P10
- ・関市文化会館開館 40 周年記念「市民の劇場」…P11
- ・お知らせ…P26~33
- ・しあわせヘルスだより…P34~36
- ・文化会館／図書館…P37



Welcome to SEKI O-MO-TE-NA-SHI

2020年 東京オリンピック開催を2年後に控えた今、いたるところで「インバウンド」という言葉を耳にするようになってきました。

日本を訪れる外国人旅行者数も右肩上がり増加しているようです。

そのことは、東京をはじめとする遠い場所での出来事だと思いませんか。

関市の飲食店へ 老舗刃物屋へ 様々な国から多くの外国人が関市を訪れています。

食、文化、そして滞在。関市を訪れる外国人の足取りや受け入れ先の状況を多方面から探ってみました。





▲ルフトハンザ航空の常連客



▲店主の小瀬木周司さん



▲親子でうどん打ち体験

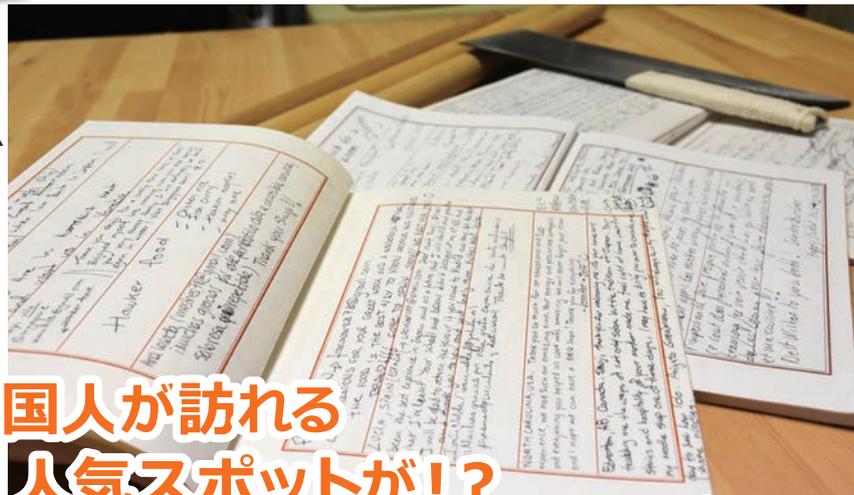


▲そば打ち体験



▲欧州でコラボそば大会

山久さんを訪れた多くの外国人からのメッセージ▲



～世界30カ国以上の人々が和食を習いにやってくる料理教室～

関市西町の「オゼキ キッキングスクール」(小瀬木周司さん主宰)。5年前に英語版 Website を改良したところ、海外からやってくる受講者が増え始め、南アフリカの外科医、ドイツのオーナーシェフなど30カ国、400人以上の様々な職種の人々が小瀬木さんのもとを訪れている。

訪れるお客さんの9割以上が個人で予約。YouTube や Facebook で評判を知った外国人が、バスや長良川鉄道に乗ってやってくることもあるのだとか。ドイツのルフトハンザ航空の機長や客室乗務員にいたっては常連客で、何度も小瀬木さんを訪ねています。「長年培った英語力と和食の技術を活かし、世界中に和食ファンを広げたい!」と笑顔で話す小瀬木さんでした。

DO YOU KNOW?

市内に大勢の外国人が訪れる人気スポットが!?



▲店主の吉田和弘さん



▲刃物の歴史に外国人も感心



～老舗刃物屋に年間10,000人以上の外国人が!??～

関市小瀬の「刃物屋三秀」(代表:吉田和弘さん)。2005年に中部国際空港が開港されたことで、中部圏に異国からの来客者が多く訪れるのを見て、「これからは海外にも目を向けるべきだ!」と意気込み、方策を模索しながら積極的なPRを続けてきた。

吉田さんによると、13年前は50人程度だった年間の外国人来客数が、現在では10,000人以上となっていて、まだまだ増え続ける実感があるとのこと。「関市の魅力を世界に上手に発信しながら、来ていただいた方すべてに魅力を伝えることが基本です。これが **お・も・て・な・し** かもしれませんね。」と笑いながら話してくれました。



▲オープンしたばかりの鍛錬場で鍛錬の実演を体験



▲板前気取りで創った料理におもわずヴォーン!



▲ミャンマー人のハートもがっちり



▲ニュージーランド人、鵜飼に興味津々

MINPAKU(民泊)

泊めた人数**100人超!** 関市民泊の第一人者
河合慶子(かわあいけいこ)さんに話を伺いました

Q 民泊をはじめたきっかけは?

A 刃物で有名な関市は、外国人にとって魅力的な場所ですが、泊まるところが少なかったり、言葉が通じないなどの問題から、市内に宿泊する外国人は多くありません。私自身も学生の頃、英国留学をしていた時に、言葉の壁を越えた温かいおもてなしを経験したので、今度は自分が恩返ししたいとの気持ちから民泊をするようになりました。

Q 民泊をしてよかったことは?

A 外国人の希望に応えようと、小瀬鵜飼の乗船場所を調べたり、稲口の花火を一緒に見に行ったこともあるんですよ。宿泊に来ている外国人は、関市を知るきっかけを作ってくれています。家にホームステイに来ている友だちのような感覚です。

Q 外国人を受け入れるために準備することは?

A 日本の文化に触れたい。日本のありふれた日常を体感してみたい。そんな人が民泊を選んでいきます。自分たちが普段何気なく過ごしている生活を共有することがおもてなしだと思います。



▲あたたかいおもてなしにメルシー



▲半端ないシンクロ率に感謝

DO YOU KNOW?

～産声をあげたばかり。関市発(初)のホスピタリティ～

英語ガイドの会

～英語を勉強してきた仲間たちと立ち上げた関市のための案内役～

今年の1月に設立したばかりの「関英語ガイドの会」(Seki English Guide Club)(代表 長谷部和子さん)。元々、他市でガイド経験があった長谷部さんが、刃物まつりのガイドボランティアのグループで知り合ったメンバーに声をかけて発足した。

関市を訪れる外国人が満喫できるよう、得意分野を中心に知識を深めながら、説明用のマニュアル作りに取り掛かっている。今後は、活動を活発にしつつ仲間も増やしていきたいと考えている。

「語学力もさることながら、相手を楽しませたいという気持ちが大切です。人と人との出会いに感謝して“今外国人が何を必要としているか”を考えて、心を込めて説明することが、おもてなしだと思います。」と話す長谷部さんの言葉には力がこもっていた。

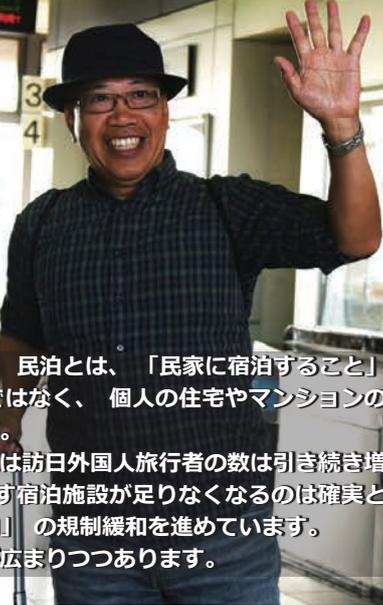
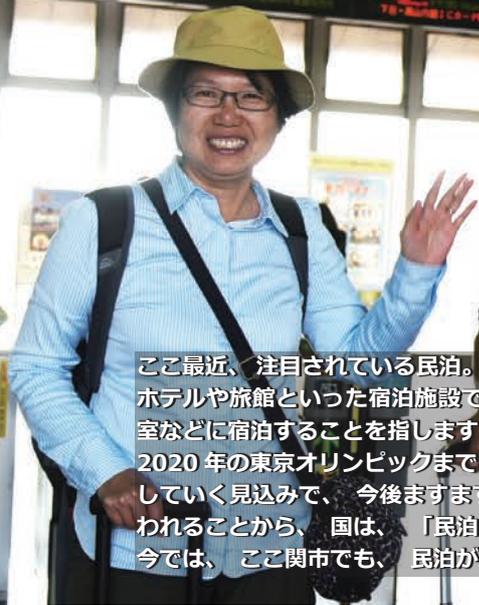


▲何と!ハンガリーから一人で関市へ
関市の魅力はワールドワイド



DO YOU KNOW?

MINPAKU(民泊)



ここ最近、注目されている民泊。民泊とは、「民家に宿泊すること」。ホテルや旅館といった宿泊施設ではなく、個人の住宅やマンションの一室などに宿泊することを指します。2020年の東京オリンピックまでは訪日外国人旅行者の数は引き続き増加していく見込みで、今後ますます宿泊施設が足りなくなるのは確実と思われることから、国は、「民泊」の規制緩和を進めています。今では、ここ関市でも、民泊が広まりつつあります。

観光のため関市を訪れ、民泊を選択した香港在住の夫婦(夫 ユガチュンさん、妻 チェンヤオウエンさん)にきいてみました

Q 訪問先として、関市を選択してくれたのはなぜ?

A Websiteを見て、櫻井さんが関市で行っている民泊を知りました。そこに泊まりたくて、今日ここに来ました。日本がとても好きなので、毎年来て色々な所を訪れたいですね。

Q 日本のどこが好きですか?

A 文化、風景など日本の全てが好きです。有名な場所であろうと、なかろうと、同じ場所でも毎日見え方が違うから、あらゆる所を見て回りたいです。あらかじめ行く方面は決めるけど、特にプランを立てているわけではないので、明日もどこに行くかは決めていません。Websiteでその時に調べます。別に観光地でなくても、何気ない川沿いがきれいだと思えば歩いてみたいし、公園を見つけたら行ってみたいです。

宿を提供した櫻井弥生さん:

「若い頃はなにもない関市だと思っていたけど、年齢を重ねると関市も割といいじゃない!と思うようになりました。留学時代にホームステイ先でよくしてもらったので、今度は、自分がおもてなしをする側として外国人と関わりを深めていきたいです。これからも関市の魅力を外国人に伝えていきたいですね。」

DO YOU KNOW?

外国人とコミュニケーションを図るきっかけに

タッチ de コミュニケーション

～伝えたい言葉を指でタッチ。便利なコミュニケーションツール～

タッチ de コミュニケーションは、【飲食編】【買い物編】【タクシー編】【宿泊編】の4種類のシートを活用し、店員と外国人観光客との間で交わす頻度の高い会話を、英語、韓国語、中国語(簡体、繁体)で示し、指でタッチすることで口頭での意思疎通をサポートするコミュニケーションツールです。十六銀行から贈呈を受け、商工会議所などを通じて配布しました。様々な場面で活用していただき、外国人のおもてなしができるようになると良いですね。

在住外国人 上村クリストファーさんから 関市民へのアドバイス

初めて関市を訪れたときからずっと親切に接してくれ、いつも手を差し伸べてくれました。語学力に関わらず、勇気を持って話しかけてくれることが外国人にとっては、とてもうれしいことですよ。

